

令和5（2023）年度第1回栃木地域公共交通活性化協議会県南地域部会
議事録（議事概要）

開催日時：令和5（2023）年7月7日（月）13:00～14:30

会議方式：オンライン（事務局：栃木県県庁）

1. 出席者

令和5（2023）年度第1回県南地域部会 出席者名簿

1 委員

No.	区分	所属		役職	氏名	備考
1	地方公共 団体	栃木県	県土整備部 交通政策課	課長	横尾 元央	部会長
2		足利市	総合政策部 総合政策課	参事兼課長	菊川 博士	
3		栃木市	生活環境部 交通防犯課	課長	高久 一典	(代理) 主事 石塚 文康
4		佐野市	都市建設部 交通政策課	課長	江田 健太郎	
5		小山市	都市整備部 都市計画課	課長	谷内 祐一	(代理) 主事 内田 直人
6		野木町	産業建設部 都市整備課	課長	岩崎 統一	(代理) 主査 坂巻 裕太
7	公共交通 事業者	東日本旅客鉄道(株)	大宮支社 経営戦略ユニット	ユニットリーダー	伊藤 滋	
8		東武鉄道(株)	経営企画本部	課長	金子 悟	欠席
9	一般乗合 旅客自動車 運送事業者	関東自動車(株)	路線バス部	部長	福島 宗文	
10		ジェイアールバス関東(株)	佐野支店	支店長	藤岡 孝二	欠席
11		足利中央観光バス(株)		部長	福島 律子	
12		(株) 小山中央観光バス		取締役会長	中島 一男	
13		大山タクシー(有)		代表取締役	大山 光	
14	公共交通 関連団体	(一社) 栃木県バス協会		専務理事	小矢島 応行	
15		(一社) 栃木県タクシー協会		専務理事	鉢村 敏雄	

2 栃木県

No.	区分	所属		役職	氏名	備考
1	県	県土整備部交通政策課		課長補佐(総括)	原田 和彦	事務局
2		〃	公共交通担当	課長補佐	亀山 泰剛	〃
3		〃	〃	主査	菊池 弘幸	〃
4		〃	〃	主査	小林 正孝	〃
5		〃	〃	主事	遠藤 大樹	〃

2. 議題

- (1) 開会
- (2) 令和4（2022）年度 栃木県地域公共交通活性化協議会の開催状況について
- (3) 栃木県地域公共交通計画（仮称）に向けた意見交換
- (4) その他
- (5) （閉会）

3. 協議事項

(1) 開会

- ・ **【事務局】** 令和5年度第1回県南地域部会を開催する。本日は、11人の委員の方に出席を頂いており、規約第六条第二項に定める定足数に達しているため、協議会が有効に成立していることをご報告する。
- ・ **【横尾部会長】** はじめに議題1の令和4年栃木県公共交通活性化協議会の開催状況について、事務局より説明する。

(2) 令和4（2022）年度 栃木県地域公共交通活性化協議会の開催状況について

- ・ **【事務局】** 資料1について説明した。
- ・ **【横尾部会長】** 意見が無かったため、次の議題に進む。

(3) 栃木県地域公共交通計画（仮称）に向けた意見交換

- ・ **【事務局】** 事務局から、資料2（P1-15まで）について説明した。
- ・ **【横尾部会長】** 足利市では利便性向上の観点から、来年10月に路線バスのダイヤ改正を予定されているが、具体的な取り組みについてお聞きしたい。またMaaS導入支援に関し、県への要望があれば伺いたい。
 - **【足利市】** 1点目として、足利市地域公共交通計画策定にあたり、事業者による携帯GPS調査を行ったところ、市の中央にある商業施設に人が集まることがわかった。また来年の秋に県立高校の再編予定もあり、高校生の利用促進を図るような商業施設への路線バスの増便やダイヤ改正を検討している。県への要望としては、広域でのMaaS構築を検討いただきたい。自治体ごとにシステムを導入した場合、導入時期や導入システムが異なると、利用者にとって利便性が向上したとは言えないため、県内統一のシステムを支援いただきたい。
 - **【横尾部会長】** MaaSの導入については県計画にも反映をしていく。足利市は今年3月に足利駅と足利市駅を結ぶ自動運転実証実験を行い、本日その結果を踏まえた報告を行ったが、実証実験に関するコメントをいただきたい。
 - **【足利市】** 実証実験の報告を受けて、周辺住民や市民の需要が高い半面、課題も浮き彫り

になったと理解している。今回の実証実験のテーマとして歩車共存での自動運転が挙げられていたが、手動に切り替えなければならなかった部分や、障害物がないところでのGPS精度の低下等の報告があった。自動運転の実装に向けた県の考え方をお聞きしたい。

➤ 【横尾部会長】県で実施する自動運転実証実験は今年が最終年度であり、事業者が実験データを蓄積・分析し、実装に向けて取り組んでいる。県は実験をサポートし、実装に向けて円滑に進むよう対応していく。

・ 【横尾部会長】栃木市では路線バスとデマンドタクシーを運行されているが、利便性向上を目指しダイヤ改正による乗り継ぎ改善に取り組まれている。また、利用者数の多い栃木駅とのアクセスを円滑にするような取り組みについても、具体的な説明と県への要望を伺いたい。

➤ 【栃木市】栃木市の形状が南北に30 km以上、東西に20 km以上あり、路線のほとんどが市内中央部にアクセスしているため、路線が長大化しているという課題がある。また、主要駅を新栃木駅に位置付けているが、既存の拠点を生かしたうえで再編の必要があると考えている。路線バスとデマンドタクシーについては、持続可能な運行ができるかが課題となっている。路線バスの取り組みとしては、鉄道駅との乗り継ぎ改善を検討している。市内中心に高校が集中しているため、バス路線沿線の高校に学生への利用促進を提案している。県への要望については、栃木駅でバスターミナルを検討しているため、協力をお願いしたい。また、路線バスの見える化としてオープンデータの支援をいただきたい。

➤ 【横尾部会長】バスターミナルについては、国のほうでいくつかプロジェクトが行われているため、個別に相談させていただきたい。

・ 【横尾部会長】佐野市ではバスの運行状況を詳細に分析し、利用者アンケートの集計を行うことで利便性の向上を図っているが、具体的な取り組みについてお聞きしたい。またMaaSの活用について希望されているが、それについてのご意見も伺いたい。

➤ 【佐野市】取り組みとしては生活路線バスの利用状況を分析するため、バス停間ごとに利用状況の調査、またバスに乗り込んで利用者にアンケート調査を実施することで、実態に合わせて需要の多い時間帯の増便やダイヤ改正を行った。佐野市をハブとした市町村合併を行っているため、旧町の利便性の良いルートを選定や、需要の多い時間帯の増便などダイヤ改正も行った。また、高速バスのターミナルについては首都圏からの利用客の分析を行い、中心部へのアクセスのよい時刻設定などに努めている。MaaSについては、足利市からも意見があったが、広域的な形でのシステム構築をお願いしたい。

➤ 【横尾部会長】乗込調査を行い生身の声を確認する姿勢が良いと考えている。MaaSについては統一的なデータ構築を行う必要があると考えており、基盤整備を進める。

・ 【横尾部会長】小山市では「おーバス」が幅広く運行されており、乗降者も増加していると聞いている。利便性向上のために路線変更なども行われたようだが、具体的な内容や苦労話があればお聞きしたい。また小山駅が県内第2位の利用率ということもあり、今後のビジョンなども併せて伺いたい。

- 【小山市】今年2月に小山市地域公共交通計画を策定し、チラシ配布などから全体的に利用者が増加傾向にある。一部利用者が乗り切れない路線があり、うれしい悲鳴だが増便しても追いつかない状況も見られている。今年度より、多くの路線で毎時2本以上を運行できるよう努めている。小山駅についても乗務員の休憩所や乗り場が不足しており、増便しにくい状況のため、整備が必要である。令和2年度から運行しているハーヴェスト温泉という路線では、様々な年代の方にご利用いただいているが、バス停の上屋やベンチの整備が追いつかず、屋外でのサイネージ設置も高額のため、改善に向けて注力していく。地区ごとに市民の生活圏が異なり、隣接する栃木市、野木町へのデマンド交通の需要があるが、他の公共交通会議で反対され整備ができない状況のため、県による仲介をお願いしたい。また、県の生活路線バス維持費補助金の申請を予定しているが、一部要件を満たせない路線があるため、運行回数等の緩和及び申請時期が国の補助金と重なるため、資料の簡略化をお願いしたい。
- 【横尾部会長】おーバス等は定額料金での運行か。また、定期券の利用者も増加しているか。
- 【小山市】片道200円の均一運賃で、定期券は安価に設定しているため、今年度の定期券保有者数が月800人前後となり、昨年度より200人ほど増加している。

・ 【横尾部会長】野木町ではデマンド交通に注力し、AIデマンドの導入も検討されているが、現時点での取り組み状況について伺いたい。また自動運転バスの導入について持続可能性の観点からご意見をいただきたい。

- 【野木町】野木町の状況として平成21年からデマンド交通を運行しており、令和2年からAIの導入を検討している。すでにAIにシフトしている近隣自治体の報告によると、スマホ予約によって土日でも予約できるため、年金受給者だけでなく若い人の利用が増加している。利用者が増加することで鶴、町としても人件費の削減や利便性の向上に繋がるため、現在策定中の地域公共交通計画にもAIを導入する方向で検討を進めている。AI導入の課題としては、システム料金が200万円以上増加する可能性があること、利用者の増加により既存サービスへの満足度の低下が懸念される。これについては、システム事業者に対してのヒアリングや近隣自治体への視察により、費用とシステム内容の比較検討の実施をしており、今年度も視察を2市実施し、来年度に向けた検討を行っている。先ほど小山市からもあったとおり、以前より町内へのおーバスの停留所設置の相談があるが、町内にはバス路線がなくタクシー事業者によるデマンド交通に頼っているため、実施への反対や負担金の問題もあり、実現が難航している。同様の事例や代替案、対応へのアドバイス等、広域的な観点での支援をいただきたい。また、昨年度末に事業者による自動運転バス導入に向けた実証実験を野木町で実施しないかという相談があり、現在検討中ではあるが、実施の方向になった場合、県として情報提供や協力をお願いしたい。
- 【横尾部会長】広域的な路線については、個別に検討させていただく。自動運転の実証実験も、申し込みがあるとのことで、県として蓄積したノウハウの提供など相談に対応できる。

・ 【栃木県タクシー協会】各市町村で検討されているMaaSについて、導入には時間をかけていか

ないと難しいと感じている。一方で自動運転については、早期の実用化が期待できると考えている。理由の一つとして、現在ドライバーの確保が非常に困難な状況のため、早急に対応する必要がある。持続可能な公共交通維持の視点からも、デマンド交通を維持するための一人当たりの経費が非常に高い。公共交通機関のタクシー運賃は現在値上げを予定しており、デマンドの運賃の差が開くと、タクシーとのすみわけが難しくなる。トラックの2024年問題やドライバーの減少、燃料高騰や人件費などを考慮すると、今後デマンドの運賃も反映していくため、受益者負担を含めないと公共交通の維持は難しいと考えている。

➤ ドライバー確保が困難な状況であり、持続可能性の確保が厳しい状況であることがわかった。料金設定と利用促進・利便増進については相反する部分もあるものの、交通事業者と利用者間で相互理解が必要であると考えている。

- ・ 【関東自動車（株）】2024年問題について、バス事業者から説明を行いたい。ドライバーの拘束時間を短縮し休息の確保が求められるようになるため、現状の管理方法では運行が難しい。利用者が戻ってきている中で悩ましいところではあるが、2024年春からの運行回数や本数について今後相談する予定である。下野市での自動運転プロジェクトについては、ノウハウを学び経験を積むべく、県の支援を引き続きお願いしたい。

➤ 【横尾会長】令和5年度は下野市で自動運転実証実験が行われることから、引き続き連携・協力をお願いしたい。

- ・ 【足利中央観光バス（株）】関東バスからお話があったが、当社も状況は同じである。自動運転は様々なプロジェクトが進行しており、市民の方の反響も大きいため、県の魅力になると認識している。

➤ 【横尾部会長】足利市での自動運転実証実験は、これまで路線バスがないところで実施したため、成功したと考えている。この実績を踏まえて事業者各社と一緒に研究を進めていく。

- ・ 【（株）小山中央観光バス】先ほど説明があった通り、小山市の県立高校については4校立地し、そのうちまちなかに立地しているのが1校であり、残りの3校が非常に不便な場所に立地しているため、当社でバスを運行している。私立校はバスを出して生徒の確保をしているため、堅実な運行だが、県立高校では学校負担がなかなかできないということで、学生の負担が多くなっている。できれば県の助成があるといい。また小山市とは10月に予定しているダイヤ改正なども県の協力を得ながら行っていきたい。

➤ 【横尾部会長】県立高校スクールバスについては、県教育委員会からスクールバスが出せないため、現在は事業者による路線バスしかない。持続可能な公共交通には通学コースの確立も非常に重要と考えているため、改めて検討したい。

- ・ 【バス協会】各市町のご意見からMaaSへ興味をお持ちのようだが、MaaS導入前にキャッシュレス化の推進として、交通系ICカードを県内すべてのバスに導入する点で、県にリーダーシップをとっていただきたい。利便性もよく、様々なデータも取得できるため、高齢者への外出支援や利用促進に繋がると考えている。

- **【横尾部会長】** 共通で利用できる電子決済については、利用促進につながると認識している。県でも検討を続ける。
- ・ **【横尾部会長】** その他ご意見、ご質問を承る。
 - **【佐野市】** 参考資料について質問する。資料3「計画策定の方向性の整理」のP8下部※印に「鉄道について大量輸送性に優れていることから軸として設定する」と記載があるが、バスと鉄道の連携について、現在での構想を伺いたい。
 - **【横尾部会長】** 当然ながら鉄道が一番の交通軸と考えており、既存の路線を持続可能なネットワークに据えたうえで、沿線の駅から利用できる公共交通の設定を検討している。近々、現状に合わせた原案を各自治体に確認する予定である。
- ・ 続いて、2019年の9月に策定した栃木公共交通広域ネットワークガイドラインに基づき、計画における共同者の役割分担について、事務局より説明する。
- ・ **【事務局】** 役割分担（資料2のP16）について説明した。
- ・ **【横尾部会長】** 役割分担について、意見が無かった。

(4) その他

【事務局】

地域部会は、今年度も活性化協議会と合わせて何回か開催する予定のため、ご理解ご協力をいただきたい。また本日の意見公開を経て、アンケートの記載内容の加筆修正等がある場合は、1週間を目途に事務局までご連絡いただきたい。

【横尾部会長】

- ・ 全ての議事が終了したため、事務局にお返しする。

(5) (閉会)

【事務局】

第1回県南地域部会を閉会する。